

SB総プロ成果報告会の開催及び 設計支援ツールの公開



住宅研究部 住宅ストック高度化研究室長 高橋 暁

国土技術政策総合研究所は、2007年11月1日に、建築分野におけるLCCO₂ 排出削減、資源消費・廃棄物排出削減に向けた技術開発*について、『SB 総プロ成果報告会』を開催（共同主催・財団法人建築環境・省エネルギー機構、共催・独立行政法人建築研究所）しました。報告会には、建築実務者、国・地方公共団体の営繕実務担当者、学生など、幅広い分野の方々180名余りの参加があり、基調講演、技術開発の成果報告に続き、参加者からの質疑とその回答まで、活気溢れる会となりました。

慶應義塾大学教授村上周三氏による基調講演「建築物の環境性能評価の最新動向」では、京都議定書の発効、特に業務部門・家庭部門のエネルギー消費量の増加に対する建築分野におけるCO₂排出の絶対量抑制への対応に関して、我が国の評価手法であるCASBEETMを題材に、英米評価手法との比較や、その有意性、および今後の

*SB総プロ：
国土交通省総合技術開発プロジェクト「持続可能な社会構築を目指した建築性能評価・対策技術の開発」（平成16～18年度），SB：Sustainable Building



会場：住宅金融支援機構 本店『すまいるホール』

写真1 報告会での発表風景

展望について講演があり、参加者の強い関心を引いていました。

成果報告では、技術開発成果の概要をまとめた聴講資料に即して、SB総プロの全体像説明の後、LCCO₂の検討部会、LCW（廃棄物排出）の検討部会、設計支援ツールの検討部会の順に、成果と研究のプロセスについて発表・解説し、質問応答による補足説明を行いました。合わせて、設計段階において排出量を算出するための設計支援システム「BEAT-Bldg」の実行形式プログラムを公開・配布致しました。



BEAT-Bldg（ビートビルディング）：
Building Environment Assessment Tool
for Buildingの略

図1 設計支援システム「BEAT-Bldg」

本総プロの成果は、建築主や設計者が、建築物の設計や運営において活用し、建築物の環境負荷低減に向けた取組みを進めていくことを支援するものです。報告した成果概要は、下記により配布するとともに、質問・回答、改良・更新等の情報提供を行う予定です。

ダウンロード&サポート

URL : <http://www.nilim.go.jp/>

E-mail: SBPROJECT@nilim.go.jp